

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和6年1月末現在）

今月の重点活動

■トマト・ほうれんそう 部会員を対象とした個別面談を実施

農業普及課は、農閑期の12月～1月にかけてJAひだ営農指導員と連携し、飛騨蔬菜出荷組合トマト部会員・ほうれんそう部会員を対象とした個別面談を実施した。

面談では、単収や出荷量などの実績をもとに本年度の栽培を振り返るとともに、栽培状況や個別事情に応じて、栽植本数を増やすなどの次年度に向けた改善事項を協議した。特に、トマトの新規就農者に対しては、チェックシートを用いて栽培能力等の技術習得状況を確認しながら、次年度に向けての意欲も確認した。

農業普及課では、今後、面談内容を整理し、個人個人に合わせた普及指導を行っていく。



【個人面談の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■夏秋トマト 就農支援塾トマトコースを開催

12月中旬から1月中旬にかけて、飛騨地域新規就農者育成協議会の主催で、就農支援塾（全11回）を開催した。就農支援塾では、農業経営に必要な知識の習得のための講義を行っており、特に就農希望者の多いトマトでは、トマトコース（全5回）を別途開催し、トマトに関する栽培技術や専門的な知識習得を図っている。

トマトコースの第4回には、農作業安全とGAPについての講義を行った。講義では、グループワークで、農場の中にどんなリスクがあるか、そのリスクに対してどのような対策がとれるか討論し、受講者1人ずつが発表した。グループワークの中で、受講生は活発に意見を出し合っており、GAPへの理解促進につながっていると感じられた。

農業普及課では、来年度も就農計画の作成等、研修生の経営開始を支援していく。



【グループワークの様子】

■ほうれんそう 求人アプリ・サイト研修会を開催

1月22日、高山市民文化会館で、県内農業者を対象とした求人アプリ・サイト研修会を開催した。

研修会では、社会保険労務士から全国規模の求人が行えるアプリやサイトを活用するにあたって、雇用時の留意点に関する講義のほか、各運営会社から求人アプリ・サイトの概要について紹介された。研修会に参加した農業者からは、どの求人アプリ・サイトもそれぞれ特徴があり、自分に合った媒体を見つけて活用していきたいとの話があり、雇用労働力の確保に対する解決策となることが期待された。

農業普及課では、本研修会の内容を広く周知するとともに、求人アプリ・サイトや外国人材の活用を通じて雇用労働者の確保を支援していく。



【研修会の様子】

■女性農業者 次世代の女性リーダースキルアップ研修会

1月15日に、飛騨総合庁舎で、下呂・飛騨地域の女性農業者を対象とした経営能力向上に関するスキルアップ研修会を開催した。

研修会では、講師として高山市内の女性農業者2名が、地産地消などの地域活動や農産加工グループ活動等の実体験をもとに講演した。参加者からは、家事・育児に取り組みながら活動することへの家族の理解や後継者育成などについて考える機会となり、大変よかったとの感想があった。

農業普及課では、今後も地域内で活躍する女性農業者の活動紹介を通じ、女性農業者の活躍の場の創出や担い手の育成につなげていく。



【研修会の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稲 「酒米栽培反省会」開催される

1月27日、吉城酒米生産組合の「令和6年産ひだほまれ栽培反省会」が開催された。

JA及び農業普及課からは、今年度の作柄として、前年に続き高温だったものの、きめ細やかな管理により、整粒率が高く「特等」81%を達成し、単収も10俵に迫るほどであったことを報告した。中山間農業研究所からは穂発芽しにくい「ひだほまれ」の育種経過について紹介された。また、JA全農岐阜からは「伝統的酒造り」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことで、酒米への需要がますます高まっていることが報告された。

農業普及課では、今後もJA等と連携した高温対策等の栽培支援を行うことで、実需者の要望に沿った酒米づくりを目指すとともに、「ひだほまれ」のブランド化を支援していく。



【反省会の様子】